

語り継ぐ受け継ぐ 豊見城の戦争記憶

映像資料ハンドブック



豊見城市教育委員会

語り継ぐ受け継ぐ豊見城の戦争記憶 映像資料ハンドブック

目次

1. プロローグ	1
2. 戦前の豊見城村	
3. 尋常小学校から国民学校へ	2
4. 沖縄守備軍(第32軍)創設	
5. 学童疎開	3
6. 十・十空襲	
7. 空襲と艦砲射撃	4
8. 第二野戦病院壕	
9. 山原(ヤンバル)疎開	5
10. 米軍上陸	
11. 南部避難	6
12. 小禄飛行場と海軍司令部壕	7
13. 米軍捕虜	
14. 豊見城への帰村・帰字	8
15. 本土疎開と学童疎開の帰郷	
16. 不発弾事故	9
17. 字の慰霊塔	
18. 平和の礎・豊見城	10
19. エピローグ(あの地を訪れて)	
20. 証言者一覧	11 ~ 42
21. あとがき 奥付	

3. 尋常小学校から国民学校へ

戦前、豊見城村には2つの小学校がありました。豊見城第一尋常高等いちじょう小学校(通称一豊)今の長嶺小学校、豊見城第二尋常高等にい小学校(通称二豊)今の座安小学校です。

当時は尋常科6年、高等科2年、合わせて8年間あり、今の中学2年生までの子ども達が小学校に通っていました。1941(昭和16)年、太平洋戦争開戦の年に、2つの学校は「国民学校」と名前を変えます。国民学校になり、教育が大きく変わります。全ての学校で、子ども達に、軍国主義教育が徹底されていくのです。



豊見城第一国民学校(昭和12年頃)



豊見城第二国民学校(昭和19年頃)

4. 沖縄守備軍(第32軍)創設

1944(昭和19)年3月、沖縄守備軍(第32軍)が創設されます。以降、沖縄に続々と軍隊が配備されます。豊見城村の各集落にも日本軍の部隊が駐屯します。沖縄守備軍は、全島要塞化を目指し、陣地壕づくりと、飛行場建設を同時に進めていました。働ける住民はすべて労働力として、陣地壕、戦車壕、与根飛行場の滑走路づくりに子どもから大人まで、全ての住民が動員されました。国民学校の児童も軍に協力。奉仕作業に動員されます。



沖縄守備軍(第32軍) 1945(昭和20)年2月
沖縄県公文書館所蔵(写真番号 73-14-4)

5. 学童疎開

1944(昭和19)年7月、沖縄県は、学童集団疎開を決定します。豊見城村の学童疎開先は、宮崎県。8月に二豊^{にいとよ}58人が北郷村^{きたごう}へ疎開。9月に一豊^{いちとよ}179人が岩戸村^{いわと}と上野村^{かみの}へ疎開します。学童疎開の子ども達をもっとも苦しめたのは食べ物でした。疎開先でも戦況の悪化に伴い、食料調達^{じゆうたう}が厳しくなっていたのです。食べ盛り^{たべもり}の子どもたちにとってひもじさは耐え難く、勉強よりも食べ物が優先。食べ物を探し、食べられるものはなんでも食べたといいます。初めて体験する寒さにも苦しみます。飢え、寒さを耐えながら、遠く離れた故郷・沖縄の家族を想い、その無事を祈る長い2年間でした。



宮崎県岩戸村(現高千穂町)に疎開した一豊

6. 十・十空襲

1944(昭和19)年10月10日、アメリカ軍は延べ1396機の艦載機で奄美諸島から沖縄・宮古・八重山まで、南西諸島の飛行場と港湾を破壊、市街地を攻撃します。早朝から午後4時頃まで長く続いたこの大きな空襲で、那覇はほとんど焼き尽くされてしまいます。いわゆる『十・十空襲』^{じゅうじゅうくうしゅう}です。

豊見城村には攻撃も被害もありませんでした。しかし、米軍攻撃の強烈な印象として、豊見城村の多くの人が鮮明に記憶しています。一豊の子^{いちとよ}ども達を宮崎へ送り届けた疎開船^{じんげい}迅鯨もこの空襲で撃沈されます。空襲後、豊見城村には那覇から避難民が押し寄せました。



那覇の港湾施設 1944(昭和19)年10月
沖縄県公文書館所蔵(写真番号 108-28-4)

7. 空襲と艦砲射撃

1945(昭和20)年1月からアメリカ軍の攻撃が本格的になります。家の壕や集落の壕に避難する生活が始まります。2月中旬から防衛招集があり、男性は戦場へ送り出されます。

3月下旬、ついにアメリカ軍が沖縄近海を取り囲みます。艦載機からの銃爆撃、軍艦からの艦砲射撃が開始されます。3月中旬から下旬にかけて、山原疎開が始まったのです。



真玉橋の空襲 1945(昭和20)年4月30日
米国立公文書館所蔵

8. 第二野戦病院壕

豊見城グスクの第二野戦病院壕では、3月23日、看護教育を終えた私立積徳^{せきとく}高等女学校の女子生徒25名が従軍。当初は負傷兵が少なく静かでした。4月中旬から中部の戦闘で負傷した兵隊が数多く運び込まれます。二段ベッドにいっぱいの患者たちを看護する日々。家族の写真や名刺を見せ、死を覚悟した兵隊たち。壕入口に爆弾が落ちることもありました。5月下旬、糸満市(旧真壁村)糸洲に撤退するまでの2か月間、傷病兵の看護にあたります。



第二野戦病院壕内部(戦後) 鉄骨は戦後造られた



第二野戦病院壕入口(戦後)

9. 山原(ヤンバル)疎開

沖縄県は2月に北部疎開命令を出し、疎開地も指定します。豊見城村は、大宜味村の喜如嘉、田嘉里、謝名城の3集落でした。本格的に山原疎開し始めたのは3月。家族で、親戚と、字全体で、大宜味村へ向いました。山原疎開の生活は、飢えとの戦いでした。食べ物を探しまわり、集落に下りては、畑の芋をあさったり、毒抜きが大変なソテツも食べたりしなければならぬ状況で、身体的にも精神的にも追い込まれていきます。



謝名城の避難場所(2015年)



避難小屋(名護博物館再現)

10. 米軍上陸

アメリカ軍は3月26日～29日に慶良間諸島全域を制圧します。アメリカの沖縄攻略部隊は、空母40隻、戦艦30隻をふくむ艦船約1500隻、上陸部隊18万2800人。後方支援部隊を加えると54万8000人。それに対して沖縄守備軍は防衛隊や学徒隊合わせても約10万人でした。4月1日、ついに米軍は沖縄本島に上陸し、大規模な地上戦が始まります。



沖縄本島の上陸 1945(昭和20)年4月1日
沖縄県公文書館所蔵(写真番号 83-08-4・83-23-2)

11. 南部避難

アメリカ軍上陸後、戦況は日ごとに悪化。5月27日、遂に首里の沖縄守備軍司令部は南部へ撤退します。同日、豊見城グスクの第二野戦病院壕も旧真壁村の糸洲壕へ撤退。5月下旬、豊見城村では、目の前に迫るアメリカ軍から逃れようと、村内の壕に避難していた多くの住民が南へと避難していきます。



瀬長海岸 1945年6月
沖縄県公文書館所蔵(写真番号 86-23-3)



空爆を受ける瀬長島 1945年6月12日
沖縄県公文書館所蔵(写真番号 72-41-3)



豊見城グスク 1945(昭和20)年6月
沖縄県公文書館所蔵(写真番号 75-01-4)



海軍司令部壕へ攻撃 1945年6月13日
米国立公文書館所蔵

12. 小禄飛行場と海軍司令部壕

5月28日、海軍大田司令官は豊見城村の海軍司令部壕に移動します。6月4日、アメリカ軍は、小禄半島に上陸、6月6日には小禄飛行場を占拠します。隣接する豊見城村の住民も米軍に包囲され逃げ場を失います。豊見城村の村内での住民の戦死者が1000人以上です。全戦死者の3人に1人が村内で亡くなったこととなります。そのほとんどがこの6月に亡くなったのです。



海軍壕 司令官室(戦後)



制圧された小禄飛行場
沖縄県公文書館所蔵(写真番号 94-17-4)

13. 米軍捕虜

日本兵と住民が入り乱れた南部に、米軍は容赦ない攻撃を加えます。その結果、住民に多くの犠牲者が出ます。道端の無数の死体を見て、誰もがいずれは自分もこうなることを覚悟します。どうせ死ぬのなら豊見城村へ帰ろうと決意、戻る途中でほとんどの住民が米軍の捕虜となります。壕や墓の中に隠れていた住民も、投降の呼びかけに応じ、米軍の捕虜となります。米軍の捕虜にされた住民は、陸から海から中北部の各収容所に移送されます。南部で捕虜となった人々のほとんどが、まず豊見城村の伊良波収容所に送られました。伊良波収容所は、捕虜直後の一時的な収容所でした。



伊良波収容所 1945(昭和20)年6月20日 沖縄県公文書館所蔵(写真番号78-39-4・79-06-1)

14. 豊見城への帰村・帰字

収容所から豊見城村に戻って来たのは、1945(昭和20)年12月頃から1946(昭和21)年の初めごろです。しかし、戻れたのは自分の集落ではなく、伊良波、座安、渡橋名の3か所の収容所でした。豊見城村でのテント生活が始まりました。配給はありましたが十分でなく、大人から子どもまでいつもお腹をすかせ、食べ物を探しました。この収容所から、焼け野原となり荒地となった生まれジマの集落に行き来しては食べ物を探しました。学校が、青空教室で再開されます。臨時で渡橋名に一豊、座安に二豊が出来ます。

集落に戻ることが出来たのは、1946(昭和21)年4月～7月頃、字によって違いました。アメリカ軍部隊や施設があった字は、戻るのが遅れます。豊見城村で焼け残った家は、116戸。戦前の集落の家々は9割以上を焼失していました。焼け残った家やテントで数家族と雑居生活をはじめながら、共同作業でキカクヤと呼ばれる規格住宅を建てていきます。配給物資だけでは足りない、米軍のごみ捨て場から食べ物や資材を拾う「戦果」で飢えをしのぎます。



戦後、字の共同作業で家々が作られていく
1956(昭和31)年 宜保

15. 本土疎開と学童疎開の帰郷

本土疎開の帰郷は1946(昭和21)年8月17日、帰還第一船が久場崎港に着岸したのを皮切りに那覇港に次々と疎開者が戻ってきました。豊見城の^{にいとよ}二豊疎開団は10月5日に、一豊疎開団は10月下旬～12月下旬に帰還。2年ぶりの豊見城、生まれジマに戻ってきました。

16. 不発弾事故

米軍は、陸から海から空から、680万発の砲弾を撃ち込みました。その凄まじさは「鉄の暴風」と呼ばれました。沖縄戦が終わった後、残された不発弾は1万トンとされています。終戦直後、不発弾の爆発事故が相次いで起りました。当時はいたるところに不発弾があり、子どもたちが気軽に手に取ることが出来たのです。豊見城村でも不幸な事故がありました。



現在でも豊見城市内で数多くの不発弾が地中から見つかる。

17. 字の慰霊塔

戦後、収容所から字に戻った人々は、食べものの生産と調達、家づくりを進めていきながら、同時に、集落に散乱する遺骨を拾い集め、納骨する慰霊塔いれいを作っていきます。豊見城村でも各字に慰霊塔が建てられます。その後1960年代には、那覇市識名に建てられた「戦没者中央納骨所」へ遺骨が移動され、こうして各字の慰霊塔はほとんどが姿を消しました。今、豊見城市に残る慰霊塔は、配属部隊にゆかりのある人々によって建てられたものです。



豊見城の慰霊祭 英魂之塔と北琉之塔 1955年以降



真玉橋の眞玉之塔 1963年以前

18. 平和の礎・豊見城

沖縄戦で亡くなった豊見城村の人々は約3600人。当時の人口の10人に4人が犠牲となりました。そのうち、豊見城村内で亡くなったのは約1100人。多くの犠牲者が出た理由は、沖縄戦激戦地の南部にあって、那覇市に隣接し、軍事施設、都市攻撃への余波を受けたこと、また、日本軍の南部撤退の影響がありました。



19. エピローグ(あの地を訪れて)

ふたたびあの戦場を歩きます。
あの日を振り返ります。
私たちも振り返らなければなりません。
まだまだ語っていない人がいます。
その人に会いに行くとのは誰でしょうか。
話を聞くのはいつでしょうか。
話してもらうために、聞いて下さい。
聞いてもらうために、話して下さい。
豊見城の戦争を語り継ぐこと、受け継ぐこと
今、豊見城によらず、ひとりひとりにかかっています。

20. 証言者一覧

1 南部避難 真玉橋で銃撃	赤嶺 宏(豊見城) …………… 12
2 山原疎開 大宜味村喜如嘉	高良光昭(豊見城) …………… 13
3 ふじ学徒隊(積徳女学校)	平良ハツ(本部町) …………… 14
4 ふじ学徒隊(積徳女学校)	真喜志光子(嘉手納町) ……… 15
5 ふじ学徒隊(積徳女学校)	名城文子(沖縄市) …………… 16
6 山原疎開 大宜味村謝名城	高良ツル子(宜保) …………… 17
7 南部避難 1メートルごとに遺体	金城キク(宜保) …………… 18
8 日本海軍上海陸戦隊	瀬長俊雄(我那覇) …………… 19
9 南部避難 離れた家族は永遠の別れ	上原テル子(名嘉地) …………… 20
10 山原疎開 大宜味村田嘉里	比嘉亀次(瀬長) …………… 21
11 南部避難 母と2人の避難生活	安谷屋タケ(与根) …………… 22
12 村内避難 名嘉地のサバキナ壕	大城シゲ(伊良波) …………… 23
13 学童疎開 宮崎県北郷村(美郷町)	大城辰男(伊良波) …………… 24
14 南部避難 度重なる壕追い出し	大城光男(座安) …………… 25
15 村内避難 スパイ容疑	高良健二(渡橋名) …………… 26
16 南部避難 壕で亡くなった祖父	宜保直志(上田) …………… 27
17 南部避難 喜屋武から決死の帰字	大嶺文子(渡嘉敷) …………… 28
18 防衛隊 上官のすすめで命拾い	大城盛昌(翁長) …………… 29
19 山原疎開 大宜味村謝名城、南部避難	高安亀平(翁長) …………… 30
20 南部避難 大人の英断に助けられて	當銘光清(保栄茂) …………… 31
21 南部避難 戦車隊中隊長の言葉	金城利一(高嶺) …………… 32
22 南部避難 幼い足で戦地を歩く	嘉数陽之男(平良) …………… 33
23 南部避難 片手と家族を失う	宜保フミ(高安) …………… 34
24 学童疎開 宮崎県岩戸村(高千穂町)	平田 春(高安) …………… 35
25 学童疎開 宮崎県岩戸村(高千穂町)	大城良子(高安) …………… 36
26 学童疎開 宮崎県岩戸村(高千穂町)	平田光枝(高安) …………… 37
27 女子青年従軍 戦車に自爆を覚悟	又吉トミ(長堂) …………… 38
28 南部避難 幼稚園生の訓練生活	宮城右勲(長堂) …………… 39
29 学童疎開 宮崎県上野村(高千穂町)	赤嶺ハル(嘉数) …………… 40
30 村内避難 自殺を止めた日本兵	金城静子(真玉橋) …………… 41
31 南部避難 次々と家族を失う避難道	外間清幸(根差部) …………… 42



証言者 No.1

あ か み ね ひ ろ し

赤嶺 宏さん（字豊見城出身）

当時の年齢：14歳 体験内容：南部へ避難

DVD収録時間：17分30秒（ディスクno.1 /no. 1）

収録日：2017年11月17日 収録場所：字豊見城公民館

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】 家族はフィリピンで麻製造をしていました。小学校4年のとき、母と弟妹4人と一緒に沖縄に引き揚げます。父はフィリピンに残りました。沖縄戦が始まった時、字豊見城の青年会長として区長の命令で弾丸をくぐってあちこちの壕へ伝令をしました。母と弟妹は山原へ疎開させました。戦争中、キビ畑や溝に死人の山をみましたが怖いとは思いませんでした。出会った日本兵と2人、山原へ避難しようとしたのですが、米兵に黄リン弾をかけられ、足に大やけどを負いました。捕虜になり、胡屋、宜野座で治療をうけました。戦後、豊見城のテント小屋で生活をしました。そして米軍の仕事をしました。



証言者 No.2

た か ら こう しょう

高良 光昭さん（字豊見城出身）

当時の年齢：10歳 体験内容：山原疎開

DVD収録時間：19分44秒（ディスクno.1 / no. 2）

（喜如嘉）

収録日：2018年10月25日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】4年生の時、日本兵が学校（第一国民学校）へ入って来たため、私たちはウタキで勉強をしました。そして軍の壕掘りを手伝いました。私たち家族は、グスクにあった墓を開いて、そこに避難生活をしました。学童疎開がはじまりましたが、家の裕福な人たちが参加したので、私は行きませんでした。おばさんの誘いで急にヤンバルへ疎開することになりました。山原に着き避難小屋まで私を連れて行った母は「おばさんのいうことを、よく聞きなさいよ」と言って豊見城へ帰って行きました。「迎えに来るからね」と言って、そのまま。私は、80歳を余りますが、母が迎えに来るような気がするのです、今でも。



証言者 No.3

た い ら は つ

平良 ハツさん（第二野戦病院壕）

当時の年齢：19歳 体験内容：積徳高女(除隊)

DVD収録時間：15分21秒（ディスクno.1 /no. 3）

収録日：2017年11月14日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】小学校卒業して皆と一緒に紡績の工場で働きたいと思っていましたが、教育熱心な叔母さんに高等科出て師範学校へ行くことをすすめられます。師範学校に落ちたため積徳高等女学校へ入ります。十・十空襲にあいます。八重山の友人と2人あちこち逃げまどいます。学徒動員され、野戦病院へ配属されます。そこで入隊希望するか否か調書をとられます。家へ帰ることにして親友と涙の別れをしました。母と姉と祖父との4人の避難生活がはまりました。捕虜となり大浦崎の山の中のテントへ強制移動させられました。戦後は子どもを預るようなことから次第に先生になっていました。



証言者 No.4

ま き し み つ こ

真喜志光子さん（第二野戦病院壕）

当時の年齢：18歳 体験内容：積徳高女（従軍）

DVD収録時間：19分26秒（ディスクno.1 / no. 4）

収録日：2017年11月14日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】那覇市「私立積徳高等女学校」に入学。嘉手納から汽車通学。十・十空襲の時は、大山駅で降りてキビ畑に逃げて伏せて隠れました。女学校の制服は、スカートはダメでモンペ。下駄ばき。勉強そっちのけて、陣地づくりをしました。3月6日に看護教育を受けるため東風平民学校へ。3月23日に、豊見城グスクの壕へ配属されました。56人のうち、調書後25人が残りました。最初の頃は、負傷兵も少なく静かだったが、4月中旬頃から負傷兵が送られてきて高熱の熱気、血の匂い、膿の匂い、排せつ物の匂い、うめき声で、生き地獄でした。海軍記念日5月27日に糸洲壕へ移りました。



証言者 No.5

な し ろ ふ み こ

名城 文子さん（第二野戦病院壕）

当時の年齢：17歳 体験内容：積徳高女（従軍）

DVD収録時間：17分27秒（ディスクno.1 / no. 5）

収録日：2017年11月14日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】 越來村（現沖縄市）の字上地で生まれました。一高女の受験に失敗して積徳高等女学校に行きました。セーラー服を着られると喜んでいただけ、入学した時から戦争体制でヘチマ襟のタイトスカートでガツカリしました。第二高等女学校と一緒に看護学の勉強を東風平国民学校で受けました。豊見城の壕に来た時、すぐ、家に帰るか、壕に残るかの調書を書かされましたが、私はどこまでも従軍します、と書きました。10月の空襲の時は、家に戻って母の手伝いをしましたが、その時母が、戦争が厳しくなったら、すぐ帰っておいでよ、と言っていたのに、調書の時に、母の言葉を思い出さなかったことが残念で胸が痛いです。



証言者 No.6

た か ら つ る こ

高良ツル子さん（宜保出身）

当時の年齢：11歳 体験内容：山原疎開

DVD収録時間：20分19秒（ディスクno.1 / no. 6）

（謝名城）

収録日：2017年11月16日 収録場所：ご自宅

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】子どもの頃は遊ぶのが仕事、かくれんぼ、鬼ごっこで宜保中で遊びました。学校は第二豊見城国民学校、みんな進んで通いました。帰りに木の実を取ったり、きゅうり、ミカンを取りました。卒業式の日に空襲。裏山の防空壕へ避難しました。そして大宜味村へ移動しました。（田嘉里の山）出産間近の先生の避難小屋に爆弾が落ちました。先生即死。ご主人は奥さんのために卵を買おうと出かけていて命拾い。それから久志へ移動しました。食料では大変困りました。カタツムリをいっぱい集めて炊いて食べたこともあります。平安座からサパニで野菜売りに来る人がいました。祖父は馬を売り、その金で家族を平安座まで乗せてもらうことにしました。



証言者 No.7

きんじょう きく

金城 キクさん（宜保出身）

当時の年齢：9歳 体験内容：南部へ避難

DVD収録時間：19分43秒（ディスクno.1 / no. 7）

収録日：2018年10月11日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】私の家は11人家族で、農業をしておりました。第二国民学校（今の座安小）で友達と遊ぶのが一番楽しかったです。戦が近づくと、もう学校へは行きませんでした。大勢の日本兵が入ってきました。私の家は宜保でも大きな家でしたから30人近い兵隊が入って、私は自分の家にも入れなかったです。サーターヤヤーが、日本軍の炊事場でしたが、鍋底のコゲをへうでおこして私たちにくれました。学童疎開が始まりました。私はとても行きたかったのですが、母親は「あんたが行ったら母ちゃん1人で、どうするか」と言い、私は母親と一緒にお家に残ることになりました。



証言者 No.8

せ な が と し お

瀬長 俊雄さん（我那覇出身）

当時の年齢：16歳 体験内容：海軍上海陸戦隊

DVD 収録時間：19分59秒（ディスクno.1 /no. 8）

収録日：2018年10月10日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】 生れたのはフィリピン・ミンダナオ島。戦前フィリピンは麻栽培が盛んで、父は19の時に移民、10年後 母が花嫁移民。沖縄の祖父から「子供たちだけでも帰せ」。沖縄の小学校では標準語励行。戦争が近づくと勉強は二のつぎ、体をきたえることが一番でした。海軍にあこがれ、私は やがて海軍通信学校へ入ります。卒業すると念願の上海陸戦隊勤務となりました。通信兵ですから戦況がよく分かります。沖縄地上戦、広島原子爆弾の報も入ってきました。終戦、そして引き揚げ。博多で父の死を知ります。そして さがし廻って、大分で母と妹たちと再会したのです。



証言者 No.9

う え は ら て る こ

上原テル子さん（名嘉地出身）

当時の年齢：9歳 体験内容：南部へ避難

DVD収録時間：17分59秒（ディスクno.1 / no. 9）

収録日：2017年12月25日 収録場所：字名嘉地公民館

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】 ナチブサー（泣き虫）だったテル子さんは、いつも姉に手をひかれて学校に通いました。雨の日はカシガー（草の雨具）をかぶりました。戦になり2人の兄は戦死。テル子さん家族は近くの壕に隠れていたが艦砲の弾がスーパーナイ（いっぱい）とんできます。糸満に逃げました。真栄里の大きな家に30名くらいいました。ここにも弾がとんできるとなり、父がどうせ死ぬなら生れジマ（名嘉地）へ行こうと向かいました。海辺を歩いていると、いつの間にやらアメリカの収容所にぶつかりました。船に乗せられ、海に捨てられるとみんなで泣きました。ところが（北中城村）喜舎場仲順へ着きました。山々に隠れていた日本兵が夜食べ物をもらいにやってきました。



証言者 No.10

ひ が か め じ

比嘉 亀次 さん（瀬長出身）

当時の年齢：13 歳 体験内容：山原疎開

DVD 収録時間：19 分 34 秒（ディスク no.1 /no. 10）

（田嘉里）

収録日：2017 年 12 月 6 日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】子供の頃、海遊びは楽しかった。引潮にのって沖へ出、満潮にのって、島に帰ってきました。3月の半ば頃に4名家族で山原の田嘉里へ疎開しました。山の避難小屋に住みました。爆弾で消滅、山の奥へ入りました。戦が終わって田嘉里の集落を下りてきて捕虜となりました。食物がなくソテツを食べました。豊見城に帰った時、テントがたち並んでいました。島へ帰れませんでした。米軍のアスファルト工場になっていました。17才から軍作業に出ました。そして建設会社、ウイスキー会社とわたり歩いて、最後はアメリカ軍のガードマンをしました。ふるさと瀬長島は変わってしまいました。学校へ海を歩いて通ったことをなつかしく思い出します。



証言者 No.11

あだにやたけ

安谷屋タケさん（与根出身）

当時の年齢：15歳 体験内容：南部へ避難

DVD収録時間：17分4秒（ディスクno.2/no.1）

収録日：2017年12月21日 収録場所：字与根公民館

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】十・十空襲の時から歩けない父1人を与根に残して母と2人武富の壕へ避難しました。母は与根に通ってイモをとりに行き、父に食事を運んでいます。米軍が上陸してくると、喜屋武村の福地へ移動しました。母と2人大きなガジュマルに石垣を築いて隠れ住みました。母は毎日水汲みに村井戸まで行きましたが「1時間して帰らなかったら探しにおいて、倒れていたらきれいにしてよ、運ぶのはできないから」と出かける時必ず言いました。幸い何事もなく、そこで捕虜になりました。伊良波收容所、野嵩、古知屋へと移されました。戦後与根へ帰った時すべて灰塵に帰していました。父の消息も知れませんでした。



証言者 No.12

お お し ろ し げ

大城 シゲ さん（伊良波出身）

当時の年齢：17 歳 体験内容：村内避難

DVD 収録時間：19分50秒（ディスクno.2/no. 2）

収録日：2018年10月6日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】米軍上陸して、艦砲射撃が激しくなりました。川に水汲みに行った家族2人が爆死しました。海軍に行った兄も沖縄で行方不明になりました。瀬長島は海が見えないくらい軍艦がいっぱい。夜には灯がついて、那覇まつりみたいに凄かったです。家族はみんなチリチリバラバラになり、親子3人をつないで逃げまわりました。平良グスクの避難壕へ逃げましたが、そこも艦砲射撃が激しく、一日中キビ畑の中へ入って泣いていました。その翌日、捕虜になりました。仲西で船に乗せられ「海に捨てられる!」と思っていたら仲順というところへ着きました。それから山原の古知屋へ降ろされました。



証言者 No.13

お お し ろ た つ お

大城 辰男 さん（伊良波出身）

当時の年齢：11歳 体験内容：学童疎開

DVD収録時間：17分09秒（ディスクno.2 /no. 3）
（宮崎県北郷村）

収録日：2018年10月6日 収録場所：豊見城市中央図書館大集室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】伊良波には美しい伊良波森と大きな川があり、田んぼが一面に広がっていました。米軍の進攻が迫ってくると、私たち豊見城第二国民学校も学童疎開をすることになりました。昭和19年の9月だったと思います。先生の家で集合して那覇に向かいましたが、那覇港へ着いた時は船は出ており、一週間待たなければなりません。乗り遅れた船は沈没した対馬丸でした。疎開先は、宮崎県北郷村でした。木炭トラックで八里の山道に入りました。本当に、ひもじい思いをしました。学校へ行かないで、川で魚を獲って焼いて食べたり、農家から芋を盗んだり、水車で精米中の半つきの米を盗んでかじりました。



証言者 No.14

お お し ろ み つ お

大城 光雄 さん（座安出身）

当時の年齢：10歳 体験内容：南部へ避難

DVD収録時間：20分18秒（ディスクno.2/no.4）

収録日：2018年10月25日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】座安集落は、田んぼもあり、畑も肥えてキャベツなどいろいろな野菜がとれ、樽詰めた砂糖とともに内地へ出品していました。祖父が馬車ムチャアだったので荷を集めて那覇港へ運んでいました。学校は豊見城第二国民学校。戦争が近づいてくる頃は配属将校が校長室の隣に部屋をとり監視していました。方言を使うと「スパイ用語を使った」と方言札を首にかけられます。やがて山原疎開が始まりました。おじいちゃんは「そんな、食べ物もない所へ行くな」と言いました。家には、良い防空壕を掘ってあったから、ここでしのげるはずだと思っていました。



証言者 No.15

た か ら け ん じ

高良 健二 さん（渡橋名出身）

当時の年齢：14 歳 体験内容：スパイ容疑

DVD 収録時間：20 分 24 秒（ディスク no.2/no. 5）

収録日：2017 年 11 月 16 日 収録場所：ご自宅

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】子どもの頃は、よく働きよく遊びました。県立二中へ進学し、那覇の親類に下宿しました。その時十・十空襲に会います。学校も焼け、渡橋名の家へ帰ってきました。中学生たちが集まってハーモニカでモールス信号して遊んでいたら、突然4、50名の着剣の兵隊に囲われました。スパイ容疑だといいました。日頃仲良くしていた兵隊が別人のように怖かったです。軍の使役をしながら渡橋名の壕にいました。そして捕虜となりました。ハワイ帰りの泡瀬タンメー（おじいさん）に救われます。船にのせられ安谷屋へ。そして金武の中川収容所。戦果アギヤーの話。米軍の物資を盗みました。その後、渡橋名へ帰ります。絶対に戦争はあってはなりません。



証言者 No.16

ぎ ぼ な お し

宜保 直志 さん (上田出身)

当時の年齢：12 歳 体験内容：南部へ避難

DVD 収録時間：19分 28秒 (ディスク no.2 /no. 6)

収録日：2017年 11月 15日 収録場所：ご自宅

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】昭和19年、軍の壕掘りを手伝いました。また飛行場づくりもやりました。グスクの石垣を壊して運びました。家族は大阪へ行くことになり、おじいおばあと3人沖縄に残りました。あの港の別れ、忘れられません。同級生は学童疎開しましたが、それにも行けませんでした。壕内に3家族一緒に暮らしました。壕内で祖父が病没、墓へ葬ります。阿波根、名城、喜屋武へと逃げました。途中、足を怪我し、名城に1人居る時捕虜となりました。米軍野戦病院で治療をうけます。戦後、祖母も一緒になり、大阪へ行った家族も上田へ戻ってきました。平和な世が続いてもらいたいとつくづく思います。



証言者 No.17

お お み ね ぶ み こ

大嶺 文子 さん（渡嘉敷出身）

当時の年齢：10 歳 体験内容：南部へ避難

DVD 収録時間：20 分 10 秒（ディスク no.2 /no. 7）

収録日：2017 年 12 月 7 日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】姉は学童疎開で宮崎へ、学徒隊を志願した二中の次男は戦死しました。戦が迫ってきた時、山原疎開を試みましたが那覇の海いっぱい軍艦をみてあきらめ、南部を目指しました。叔父の家族と20名ほど一緒に避難しました。喜屋武の山へ達した時、3人の兵隊の入っている壕があり、入れてくれと頼むが断られ、スコップで穴を掘ります。ところが爆弾がその壕を直撃、2人戦死、残った1人が「殺してくれ」と叫びます。娘がやられた女性、海に浮いた2人の女性の死体、キビをくわえたままの老人の死体、かわいそうとは思いませんでした。南部病院前で捕虜になりました。伊良波、真栄原を移動させられました。



証言者 No.18

お お し ろ せ い し ょ う

大城 盛昌 さん（翁長出身）

当時の年齢：17歳 体験内容：防衛隊入隊

DVD収録時間：16分54秒（ディスクno.2/no.8）

収録日：2017年11月10日 収録場所：翁長共同利用施設

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】翁長は、サトウキビ、サトウづくり、イグサづくり、^{むしろ}蕨づくりの村でした。青年学校で軍国主義教育を受けます。防衛隊に入ったのは、20年2月。球部隊で隊長の当番兵をしました。そして部隊とともに南風原の壕、糸満米須の壕へと移りました。同じ壕の井上上等兵にすすめられて摩文仁海岸で捕虜になりました。そしてハワイへ送られました。8月、日本降伏とともに金武の屋嘉収容所へ。カンカラ三線を習います。金武にいた家族と一緒に豊見城へ帰ります。戦後、マカヤーでの綱曳き、復興が始まります。子どもたちに「平和以外に良いことはない」と伝えたい。



証言者 No.19

た か や す き へ い

高安 亀平 さん（翁長出身）

当時の年齢：15歳 体験内容：南部へ避難

DVD収録時間：20分33秒（ディスクno.2/no.9）

収録日：2017年11月10日 収録場所：翁長共同利用施設

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】 学校へは裸足で通いました。雨降りの時は麻袋を被りました。ふかしイモ1つか2つ持って。学校から帰ると家畜の世話、草刈り、キビ刈りをしました。卒業すると馬車ムチャーをしました。飛行場や掩体壕づくりに土や松の木を運びました。3月も終わりの頃、家族と一緒に大宜味村に避難しました。謝名城の避難所には食料が乏しく、そこで食料をとり豊見城へ帰りました。しかし、北部に戻れず喜屋武へ避難しました。喜屋武は悲惨そのものでした。どうせ死ぬなら家へ帰ろうと豊見城を目指しましたが、糸満福地に来たとき捕虜になりました。宜野座の福山で姉たちも一緒に避難しました。翁長に帰って2×4の住宅を作って、2、3家族一緒に生活しました。



証言者 No.20

とう め こう せい

當銘 光清 さん（保栄茂出身）

当時の年齢：12歳 体験内容：南部へ避難

DVD収録時間：20分49秒（ディスクno.2/no.10）

収録日：2018年10月9、11日 収録場所：自宅、豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】3月のある日、一日で保栄茂の集落が燃えてしまいました。岩陰の古墓から骨壺を出して、家族9人と母の実家4名、この13名が隠れ住むことにしました。だんだん攻撃が激しくなるので南部へと避難することにしました。そして兼城のアガリメージュウという空屋に家族等のグループ3所帯21名が入りました。それからドンドンガマという自然壕へと移りました。しかし、こも抜け穴がないから攻撃されたら逃げ場がないと、夜明け方、国吉の方へ移動しました。井戸で水を汲もうとすると兵隊さんが2、3人死んでいるのです。それでもチューカー（急須）で水を汲んで、家族みんなに大事に飲ませました。



証言者 No.21

きんじょう とし い ち

金城 利一 さん（高嶺出身）

当時の年齢：11 歳 体験内容：南部へ避難

DVD 収録時間：20 分 31 秒（ディスク no.3 /no. 1）

収録日：2017 年 11 月 27 日 収録場所：ご自宅

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】子供の頃の遊びは、食べることにつながっていました。キビをかじったり、エビをとったり…駐屯していた戦車隊が出撃するのを見送りました。ある上等兵が戦車の片隅に呼んで「坊（ポン）、日本は負けるよ、犬死するな」と言いました。ありがたい話なのに、あの時は軟弱者の兵隊としか思いませんでした。南部へ避難する時、阿波根で弟と祖母がはぐれました。壕に入っている時、アメリカ軍の捕虜となります。潮平から中城の仲順に、安谷屋へと送られました。そこから軍作業に出ました。缶詰も芋も米も配給されました。山原へ送られました。何も無いその山小屋に半年いました。読谷飛行場のゴミ捨て場をあさりに行きました。



証言者 No.22

か か ず よ し お

嘉数陽之男 さん（平良出身）

当時の年齢：6 歳 体験内容：南部へ避難

DVD 収録時間：19分 17秒（ディスク no.3 /no. 2）

収録日：2018年 10月 9日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】農業をしていた私の家は、いとこ2人を入れて9人の大家族でした。家には牛、馬、ヤギもおり、貧しくとも山や川に恵まれた楽しい子供時代でした。戦が近づくと、村にも軍隊が駐留するようになりました。私の祖父は標準語が出来ないのでスパイ容疑でつかまりそうになったことがあります。4月、米軍が上陸すると沖縄は一気に戦場となります。父を徴用された私たちの一家は、南部へと避難することになりました。死体を踏みながら南へ南へと急ぎました。喜屋武に着いた時、大爆撃にあい、村は殆ど消えてしまいました。



証言者 No.23

ぎ ぼ ふ み

宜保 フミ さん （高安出身）

当時の年齢：23 歳 体験内容：南部へ避難

DVD 収録時間：18 分 34 秒（ディスク no.3 /no. 3）

収録日：2017 年 12 月 4 日 収録場所：宇高安公民館

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】戦前上田へ嫁入りしました。主人は内地へ行きました。10人ぐらいの大家族でした。赤ん坊を背負って門を立たところ艦砲の破片にあたって片手を失いました。誕生日をこえた赤ん坊を妹に預けて実家へ帰り、なめくじ（アメリマムサー）に塩をかけて溶かし患部に塗って治しました。2家族一緒に山城、東辺名上里へと避難しました。その間父母を失いました。婚家に残してきた赤ん坊も死んでいました。東辺名で捕虜になりました。病院ではマラリアが蔓延していました。今では大人3人、男の子2人、女の子3人の大家族で花づくり、野菜づくりをやっています。言いたいことはない。私は幸せに暮らしている。



証言者 No.24

ひ ら た は る

平田 春 さん (高安出身)

当時の年齢：12歳 体験内容：学童疎開・軍需工場

DVD 収録時間：16分52秒 (ディスク no.3 / no. 4)

(宮崎県高千穂町
／旧岩戸村)

収録日：2017年12月4日 収録場所：宇高安公民館

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】 豊見城第一国民学校89名学童疎開に出発しました。那覇まで家族に送られ船に乗ります。大きな潜水母艦と聞きました。鹿児島へ着き、汽車で高千穂へ行きました。着いた時は40cm位雪がつもってとても寒かったです。山へ薪をとりに行きましたが、吹雪で震えて薪もとらずに泣いて宿舎に帰ったこともあります。またひもじくして、トウモロコシや干し柿、タライモなど男の子がとってきて先生が詫びに歩くこともありました。沖縄玉砕の報が入った時はみんなで泣きました。男の子は5、6年になるとロベラしのため農家に働きに行きました。寒さとひもじさは忘れられません。戦後、80何名一緒に沖縄へ帰りました。父も母も道へ出て待っていました。嬉しかったです。



証言者 No.25

お お し ろ よ し こ

大城 良子さん (高安出身)

当時の年齢：12歳 体験内容：学童疎開

DVD収録時間：18分27秒 (ディスクno.3/no.5) (宮崎県高千穂町
収録日：2017年12月4日 収録場所：宇高安公民館 /旧岩戸村)

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】 家には馬が2頭、豚5頭、鶏がいました。サーターヤーの手伝いをしながら、石ナグーで遊びました。楽しかった戦前。戦が迫り自ら学童疎開を決めました。岩戸村の生活は寒さとひもじさの毎日でした。男の子たちはイモやトウモロコシ、米を盗んで食べました。またよく喧嘩しました。農家の手伝いに行行って腹いっぱい食べました。戦後父が鹿児島で入院中に延岡の化繊工場へ働きに行きました。沖縄へ帰ってから大変でした。ゴミあさりをし、古材や食べ物を探しました。辛い思いばかりだけど岩戸村へ行ってみたいと思いました。初めて行った時、おばあちゃんたちが泣いて抱きつきました。「ひもじいおもいをさせたこと本当にごめんね。」



証言者 No.26

ひ ら た み つ え

平田 光枝 さん (高安出身)

当時の年齢：8 歳 体験内容：学童疎開

DVD 収録時間：18分26秒 (ディスク no.3 / no. 6) (宮崎県高千穂町
旧岩戸村)
収録日：2017年12月4日 収録場所：宇高安公民館

※ 当時の年齢は、1945年1月で算出

【証言の概要】父の実家に大量の兵隊が宿泊していました。その兵隊の勧めで、疎開は3年生以上でしたが、2年生の私も疎開することになりました。疎開先の岩戸村は寒かったです。そして何よりひもじかったです。兄々達が麦粉や米糠を盗んできました。でも自分たちだけでは食べませんでした。小さな私達のポケットに入れてくれました。眠っている間に入れてくれたこともあります。私は水にも溶かさなくて、そのまま口に入れました。イモも生でかじりました。サクランゴ食べ過ぎて腹を壊したこともあります。私達を運んでくれた潜水母艦が十・十空襲で沈んだと聞きました。ミッチャンミッチャンと優しくしてくれたおじさんも亡くなったと、泣いてしまいました。



証言者 No.27

またよしとみ

又吉 トミ さん（長堂出身）

当時の年齢：17 歳 体験内容：防衛女子

DVD 収録時間：17 分 5 秒（ディスク no.3 /no. 7）

収録日：2017 年 12 月 12 日 収録場所：良長園

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】1944年母と弟妹三人、宮崎へ疎開。軍の電話係として働きました。アメリカ軍が上陸した頃同級生が爆弾で即死、機銃で右足を撃たれます。そして真壁、新垣へ避難、キビの根やアダンの実をかじりました。水飲みに行ったら壕には1人もいませんでした。直撃弾をうけて跡形もない。墓の中に隠れているところを捕虜になりました。トラックに乗せられ知念村字知念へ移動しました。戦が終わってから長堂へ戻りました。祖父は亡くなっていましたが嫁いでいた姉2人は無事。やがて母達も帰ってきました。兄は戦死。父は帰ってきましたが病気で何も出来ませんでした。学徒隊に入り、戦地で会った許嫁は帰ってきませんでした。



証言者 No.28

みやぎ すけ の り

宮城 右勲 さん （長堂出身）

当時の年齢：6 歳 体験内容：南部へ避難

DVD 収録時間：19分 59秒（ディスク no.3 /no. 8）

収録日：2018 年 11 月 2 日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】戦前、津嘉山の方から軽便鉄道が走っておりました。村には広い松林があり、この葉っぱを周囲の人たちが拾い集め、薪代わりにしていました。日本軍が入ってくると、大きな瓦屋はみんな接收され、その納屋には軍の物資、食糧など保管されていました。教育はすべて軍中心で、「ボクは軍人、大好きだ」とか、「兵隊さん、アリガトウ」といった歌を歌っておりました。十・十空襲以降、空襲が激しくなり、機銃掃射されるので、空襲警報が解除されるまで壕の中にひそんでいました。米軍が南下してきて、長堂も危なくなったので、村の大人たちが話し合い一緒に避難することになりました。



証言者 No.29

あ か み ね は る

赤嶺 ハル さん （嘉数出身）

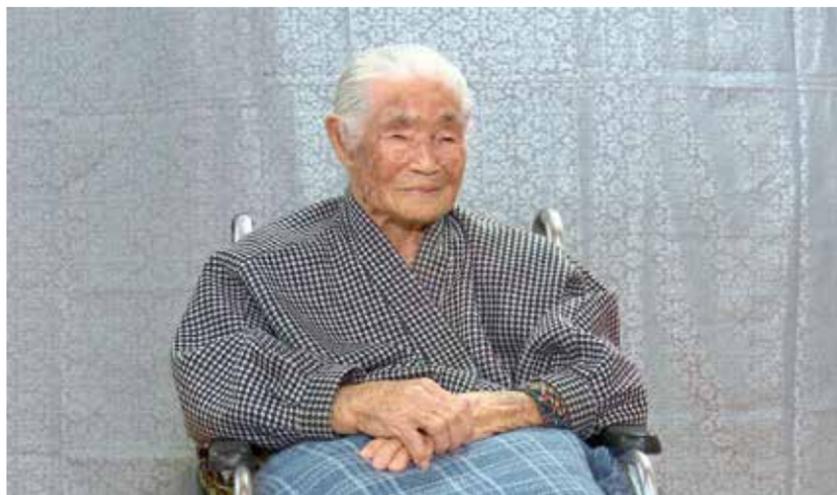
当時の年齢：14 歳 体験内容：学童疎開

DVD 収録時間：19 分 43 秒（ディスク no.3 /no. 9）
収録日：2018 年 11 月 2 日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

（宮崎県高千穂町
／上野村）

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】父はフィリピンへ出稼ぎに行き、母は1人で7人の子どもを育てました。日本軍が駐留するようになり学童疎開に行くことになりました。嘉数からは10名くらい。疎開先は、宮崎県の上野小学校、私は高等科1年生でした。一番つらかったことは、食事が少なかったことです。いつも、ひもじいから山へ行って柿を拾っては食べました。学校の廊下においてあった芋をとって、布団の中で生のままネズミみたいにガサガサ食べました。十・十空襲で沖縄が玉砕したと聞かされて、みんなで泣き崩れました。学童疎開して3ヶ月たった頃、兵庫にいた次兄が連れにきました。14、5になっている私は遊んでいるわけにもいかず、隣の人がつくる餅を仕入れて町を売り歩きました。



証言者 No.30

きんじょうしずこ

金城 静子 さん（真玉橋出身）

当時の年齢：28 歳 体験内容：村内避難

DVD 収録時間：13 分 12 秒（ディスク no.3 /no. 10）

収録日：2017 年 12 月 12 日 収録場所：良長園

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】爆撃が激しくなる前に屋敷に防空壕を掘って隠れていました。爆弾の破片がとんでくるようになって、チネンモー（知念森）の憲兵隊壕へ移動しました。子どもが泣くのでどうかしろと言われ子供と一緒に川に身投げしようと思ったその時、沖縄出身の兵隊に止められました。それから壕を出て浜の木の下に隠れていた時、捕虜になりました。防衛隊にいた夫は足を怪我して米軍の病院にいました。真玉橋へ戻った時防空壕で隠れていたトートメー（位牌）だけ残っていました。戦後はイモや野菜を作り、農連市場へ毎日売りに行きました。とめてくれたあの時を忘れられない。子どもと2人壕を出たときは生きた心地がしませんでした。



証言者 No.31

ほ か ま せ い こ う

外間 清幸 さん（根差部出身）

当時の年齢：14 歳 体験内容：南部へ避難

DVD 収録時間：19 分 33 秒（ディスク no.3 /no. 11）

収録日：2018 年 10 月 10 日 収録場所：豊見城市中央図書館大集会室

※ 当時の年齢は、1945 年 1 月で算出

【証言の概要】戦が迫り、日本軍が小学校に入ったため、ほとんど勉強はして
おりません。やることは軍の防空壕掘りの手伝いです。4月、米軍上陸。怒涛
のように攻めてきました。私たちは家族全員で南部へ避難することになりました。
武富で自然岩の良いかくれ場所を見つけたと思ったら、日本兵に追い出されて
しまいました。そこでまた南へ南へと歩きました。東辺名へ来た時、艦砲が
炸裂、妹たち3人が即死。母と私と、私の負ぶっていた甥っ子は無事でした。
死んだ妹たちを、そのままにして海辺へと逃げました。

あとがき

本誌は平成29・30年度戦争体験等映像化事業(一括交付金事業)で作成した証言映像をまとめ、令和元年の慰霊の日関連企画展示会図録として作成しました。

当時豊見城村民が体験した戦争について、戦前の平和な生活から戦争に近づく日常、さまざまな困難の中の避難生活、苛烈な戦闘地域、餓死や病死が相次いだ収容所生活、やっとの思いで果たした帰村・帰字、体験者から次世代へのメッセージ、多種多様な個人の体験を時系列順に映像を作成しました。映像は豊見城市歴史民俗資料展示室やインターネットを通じて見ることが出来ます。また、豊見城市立中央図書館で貸し出ししております。

本誌で多くの体験の存在にふれて、映像で体験者の声・表情・思いを感じてください。体験者が語る「戦争記憶」を忘れてはいけない豊見城市の歴史として、多くの方に受け継いで語り継いで頂けることを願います。

「語り継ぐ受け継ぐ豊見城の戦争記憶」
再生リスト

豊見城歴史民俗資料展示室 YouTubeページ
「語り継ぐ受け継ぐ豊見城の戦争記憶」再生リスト
https://www.youtube.com/playlist?list=PLi6Y1v8Eee0J8WtG-TLgC_Zl8uo2KQf3g



豊見城市歴史民俗資料展示室

豊見城市歴史民俗資料展示室
〒901-0232 沖縄県豊見城市字伊良波392番地
TEL.098-856-3671



語り継ぐ受け継ぐ豊見城の戦争記憶
映像資料ハンドブック

編集 豊見城市教育委員会文化課
発行者 豊見城市教育委員会
印刷 第一印刷株式会社
発行日 令和元年(2019)5月28日



「語り継ぐ受け継ぐ豊見城の戦争記憶」

完成披露試写会・贈呈式

平成31年(2019)年3月28日